

令和7年度 安城東高校が分かる 50 の質問

2025 年 7 月 1 日付



※以下の内容は、令和7年7月1日現在のものです。今後変更する場合もありますので、ご了承ください。

学校全般

■Q1 東高の特色について教えてください。

○A 開校50年目を迎えた安城東高は、校訓「達」のもとに特色ある学校づくりを進めており、進学実績をはじめ様々な分野で成果を上げています。主な特色は次の点です。

1 きめ細かな学習指導や生活指導

- どの教科においても、学年ごとに高い学習目標を設定し、生徒は日々の授業を通してその達成に向けて努力しています。本校では、生徒一人一人にきめ細かな指導をしており、進路や生活に関する面接指導や個別指導も頻繁に行っています。
- 1・2年生の朝の課外学習（いわゆる補習）をなくして生活にゆとりをもたせるとともに、全員が学ぶ一日の授業を充実させるように工夫しています（Q14の※参照）。朝は余裕をもってお弁当作りができ、必要であれば部活動の早朝練習の時間を確保できるということで、保護者や生徒から好評です。
- 3年生については進路の実現のために、希望者に始業前の課外学習を行っています。
- 全学年で夏季・冬季休業中に課外学習を行い、土曜日には「土曜講座」を開講して実力アップを支援しています。

2 個性を伸ばす進路指導

- 的確な進路情報の分析や提供、適切な進路選択を図る面接指導をはじめとした、充実した進路指導を行っています。「地元に進学校を」という地元の強い要望から創設された東高の、蓄積された進学指導のノウハウが生かされています。
- 大学進学だけではなく、将来を見通して自分の生き方・在り方も展望できる高校でありたいとの強い気持ちを全職員が共有して、現在取り組んでいます。

3 文武両道の精神

- 東高では学習とともに体力づくりを奨励しており、部活動はとても活発です。県大会に出場する部活動は多く、東海大会や全国大会にも出場しています。
- 学習と部活動を両立するためのバランス感覚を身に付けるとともに、部活動を通じた後輩・先輩とのつながりは、人生を豊かにしてくれるはずです。

4 楽しい学校行事

- 東高の在校生は、現在50を超える中学校区から通っており、中学校ごとの生徒の多様な体験がブレンドされ多文化となり、新たな学校文化を創る源となっています。その意味で生徒の活動は活発です。東高最大の学校行事である東高祭（文化祭と体育祭を合わせた行事）では、常に新たな企画が考案され、生徒会活動も活発です。
- 例えば令和4年度の東高祭では、撮影機能に限定した個人のスマホの利用が可能となり、翌令和5年度には、東高祭における個人のスマホの利用が全面解禁になりました。また、令和4年度から夏の暑い時期は「さわやか Selection!」と称して、過ごしやすい服装で快適な学校生活が続けられるように、登下校及び学校生活での服装の幅が広がりました。さらに通学用自転車も、電動アシスト付き自転車やマウンテンバイクも利用可能となりました（ただしキックボードは安全面の理由により禁止しています）。それらは生徒会が発議し、ルールを決め、全校生徒に呼びかけ実現したことです。居心地の良さに配慮した、ウェル・ビーイングな高校生活を目指しています。

5 国際理解教育

- 東高は開校当初から、「世界に開かれた学校」を目指し、国際理解教育に力を入れてきました。昭和55年以来、40年以上にわたるオーストラリアの学校との姉妹校交流事業をはじめ、諸外国からの留学生の受け入れも積極的に行っています。
- このような国際理解教育の伝統に加えて、平成30年度に新たに「国際理解コース」が設置され、シンガポール研修も始まりました。このコースについては、Q20以下を参照してください。

6 ICTを活用した学習活動の充実

- 東高はコロナ以前から積極的にICTを活用した学習活動に取り組んでいます。授業ではタブレットが積極的に使用されており、課題提出などでも利用されています。
- 黒板のホワイトボード化も積極的に推進し、「Classi」や「ロイロノート」「Teams」というグループウェアを使って、今後数年後に全国で一般化する「未来の学び」をいち早く実現しています。愛知県におけるICTを活用した学習活動充実のためのモデル校として、県内外からも注目されています。特にZoomなど、オンライン会議のシステムは、「国際理解コース」での海外の高校生との交流にも活用されました。その様子は、全国紙である「日本教育新聞」令和3年8月各号に、3回の連載で紹介されました（東高の公式ホームページでご紹介しています）。

7 東京大学教養学部との連携協定による教養講座の無料提供

- 令和3年から東高は、東京大学教養学部長と連携協定書に調印し、「東大発高校生のためのオンライン教養講座」を無料で受講できる体制を作りました。これは、知的好奇心を刺激して学習意欲を高め、高校と大学、そして将来の仕事（社会貢献）を橋渡しする講座です。アメリカ外交、英文学、言語学からスポーツ科学、バイオテクノロジー、タイムマシン、放射線などの多様なテーマを題材に、学ぶことの楽しさや意義を体感できます。
- 「ワンクリックで東大や全国の協定締結校の高校生とつながり、高校で学習していることが大学や社会でどう役立てられるのか、高校の学習の大切さが身に染みて理解できる」と好評です。これは、東高の在校生とその保護者、職員が受講できます。東高では学ぶ意欲を大切にしています。

8 豊かな自然環境

- 東高は、かつて文部大臣（現文部科学大臣）から、学校緑化の優秀校として表彰を受けました。生徒、職員、保護者だけでなく地域の方も一体となって、校内緑化に努めています。校内緑化は、自然が人間を育むという視点から、自然と一体となって生きることの大切さを実感するために必要なことだと考えています。
- 明治用水が流れる池や小川、そこから広がる大小さまざまな草木は、私たちの心を豊かに育みます。四季を通じて様々な顔を見せる自然を感じながら高校生活を送ることができます。ぜひ敷地内を歩き回ってみてください。
- 同窓会からもこのことを大切にしてほしいとの気持ちから、中庭にベンチを6台設置していただきました。気持ちの良い季節に中庭を楽しんでください。

9 グローカル人材の育成

- 「グローカル人材」とは、グローバルな視野に立ち、ローカルな視点で自己の足元を見つめながら行動できる人材のことです。東高の歴史を振り返り、グローバルな視野を踏まえつつ、地域に貢献できる人材の育成という新たな目標を設定しました。
- その人材育成のために、進路目標別の総合探究学習「グローカル・スタディーズ（GLS）」を設定し、身近な地域を見つめなおす学習を令和4年度入学生から進めています。

■Q2 学校の規模について教えてください。

- OA 令和7年度4月1日現在の生徒数、職員数は次の通りです。

[生徒数] 1074人（全学年普通科9学級の27学級）

[教職員数] 97人（校長、教頭、教諭、養護教諭、講師、実習教員、事務職員、用務員）

■Q3 中学校と大きく違うところはどのようなところですか。

- OA 大きな違いは、次の3点です。

1 高校は義務教育ではないこと

一定時間数以上出席し、一定レベル以上の成績を収めないと単位が認定されず、進級や卒業ができません。意欲を持って学業に励むことが大切です。

2 「コースや類型選択」があること

- 自分の興味・関心や将来のことを考慮に入れて、専門性を取り入れたコースを選択します。東高では入学時に「普通コース」と「国際理解コース」のいずれかを選択し、さらに「普通コース」では2年生から「人文・社会型（文系）」と「理数・自然型（理系）」に分かれます。「普通コース」の生徒は、1年生の2学期中には、自分の進路目標をおおよそ決める必要があります。
- 入学時に選択する「国際理解コース」の取り扱いについては、Q20以下で説明しています。

3 「科目選択」があること

- 1年生では、芸術の選択があります。「音楽」「書道」のいずれかを選択します。「美術」はこれまで希望者が少なかったことから、現在開講していません。
- 2年生以降は上記の型選択と関連させ、将来の進路も考えて複数の中から一つの科目を選択する選択科目制があります。詳細は、入学後のコース選択の説明会で説明を行いますので安心してください。

■Q4 購買について説明してください。

○A 全日制高校では給食はありません。東高では令和6年度から、安城市内店舗を持つ「みつばち食堂」さんに購買として入っていただき、非常に美味しいと人気を集めています。購買は南館1階にあり、営業時間は昼食時です。販売品目は、各種弁当、カレー、パン類、おにぎり、各種デザート、ジュース等で、事前予約制です。また、ペットボトル飲料の自動販売機も、校舎の内外に1台ずつ設置されています。

■Q5 東高の校則はどのようなになっていますか。

○A 本校の校則は、礼節を重んじ、品位と品格を持った人間に育つことを目標にしています。学校生活は集団生活であり、集団の規律を守るための規則も必要ですので、このことは理解してください。しかし、Q1の4で述べたように、生徒会が中心になって「自分たちの在り方は自分たちで定める」ことも大切にしています。これまで、制服の扱い方や東高祭における個人のスマホの利用の可否について、生徒会が議論し、新しい方向性を打ち出してきました。自律の精神を育む生徒会活動を大切にしています。

■Q6 東高としてはどのような生徒を望んでいますか。

○A 「主体的に行動でき、どのようなことでも意欲的に取り組める人」です。
○ 「東高の環境を生かし、努力をし、希望した進路を実現しよう」という強い気持ちをもって、学習だけでなく、部活動、学校行事、そして進路の目標達成に向けてひたむきに努力できることが大切です。
○ 卒業してから「あの高校へ行って本当によかった」と思うのは、結局、高校生活の様々な場面で一生懸命に努力し、大きな感動を得るような経験ができたかどうかにかかっています
○ 卒業生の一人がこんなことを語ってくれました。「文化祭や体育祭で、みんなで協力してダンス、団プロジェクト、応援合戦、マスコット製作などの構想を練り上げ、必死に頑張った。優勝はできなかったけれど、大会が終わった時、まさに『完全燃焼』、これが東高だ！」
○ 校風というものは自然に先輩から後輩へと受け継がれていくものです。東高は、校訓「達」のもと、『完全燃焼』するまでひたむきにに取り組める人、これまで東高が築いてきた学校文化を受け継ぎ、それだけにこだわることなく、新たな学校文化を創造してくれる人の入学を待っています！

■Q7 充実した高校生活を過ごすためには、どのようなことに心掛けたらよいですか。

○A まず自分をよく見つけ、その特性や進路希望に従って目標を決め、1日1日努力を積み重ねることです。目標のはっきりしない人は、どうしても行き当たりばったりの行動になってしまい、まとまった成果は上がりにくいものです。具体的には次のような点に心掛けてほしいと思います。
○ 先生や友達との巡り会いを大切に、そこから謙虚に学ぶ姿勢をもつこと
○ 予習、復習を大切に、真剣に授業に取り組み、学力をつけること
○ 生徒会活動、部活動、学校行事、学級活動に積極的に参加し、集団生活の中でルールを守り、思いやりの気持ちを大切に、自分の在り方を考えることができるようになること
残りの中学校生活を大切にしていれば、自然と進路は定まってきます。どこの高校を受験するかということも大切ですが、いま過ごしているこの時（時間）を充実させることが必要です。「過去を振り返れば後悔、未来をみれば不安、だからこそく今」を大切にすると、いつの時代にもいえることだと思います。

学習について

■Q8 どのような科目を勉強しますか。

○A 高校では中学で習った科目が細分化されて専門的になります。例えば「社会」が「世界史」「日本史」「地理」、「理科」が「物理」「化学」「生物」といったようになります。1年生では芸術科目以外の選択はありませんが、2年生以降は自分の進路に合わせたコース選択によって、勉強する科目も選択する必要があります。

■Q9 授業について教えてください。

○A 高校での学習内容は中学校に比べて量的に多く、質的にも深くなる上に、授業の進度も速くなります。また、黒板からホワイトボードに切り変わった教室で、タブレット・画像・映像などを使った授業も一般化しています。各教科のレポートや英語のスピーチ音声などデジタル化されたデータをクラウドに保存し、教科担任に送信することもあります。受けた授業内容は、紙ベースのノートにまとめていくことが多いです。このノートを工夫して作成することが大切です。

■Q10 宿題の量はどれくらいですか。

○A 高校の学習で大切なのは、授業の予習・復習と課題（高校では宿題のことを「課題」と呼ぶのが一般的）です。課題は、必要な学力を身に付けるために、先生達が工夫し、内容を精選して作成しています。課題の量は、きちんとした学習習慣が定着しており、進路実現に向けて自ら学習に取り組める生徒にとって、ちょうど良い量となっています（入学直後は多いと思う生徒がいますが、それは学習経験の違いです）。また、土、日を有効に活用するために、各教科から「週末課題」が出る時もあります。長期休業中は、単位数に応じた「課題」があり、休業明けに確認のテストが実施されます。
※東高では、3年間を見通して課題を作成しています（希望進路によって、もっと課題が必要な場合はその都度先生に相談できます）。
※通塾については、学習習慣の定着や苦手科目克服など、明確な目的を持って検討することが大切です。

■Q11 高校生の家庭学習時間はどれくらいですか。

○A 中学校に比べて授業の進度が速いので、家庭での予習・復習は欠かせません。そのために必要な時間は学年や個人によって異なりますが、1年生では1日最低2～3時間程度は確保して欲しいと思います。

■Q12 テストにはどのようなものがありますか。

○A 現在、定期考査(テスト)が年5回、課題テストが2回、実力テストが1回行われています。また、必要に応じて外部模擬試験が実施されます。

■Q13 コース選択について説明してください。

○A Q3の2で述べた通り、1年生で「普通コース」と「国際理解コース」に分かれ、2年生から「普通コース」が「人文・社会型(文系)」と「理数・自然型(理系)」に分かれます。このコースと型は卒業まで継続され、進路に応じた細かい科目選択をすることが必要です。そのために1年生の1学期から類型説明会や希望調査を行い、12月には最終登録を行います。なお、「国際理解コース」は、1年生から3年間継続となり、2年生以降は進路目標や選択科目等が基本的に文系の内容となります。Q20以下を参照してください。

■Q14 課外学習はどれくらいありますか。

○A 平日の課外学習

○ 1・2年生はありません。3年生のみ、始業前の課外学習(科目選択ごと)があり、一部授業後(科目選択ごと)に実施しています。

○ 夏季休業中の課外学習

1・2年生は8日間程度、3年生は15日間程度実施しています。

※本校では、週34時間、授業を行うことで、全員が授業で実力を付けることを重んじています。1・2年生の始業前の課外学習を実施していません。したがって、規則正しい無理のない生活の中で学力を効率よく伸ばせます。

国際交流活動について

■Q15 オーストラリアにある姉妹校とは現在どのような交流をしていますか。

○A 本校からは隔年(令6,8,10)で、姉妹校であるオーストラリアのベイサイド・P-12カレッジ校(メルボルン近郊にあるホブソンズベイ市)に「訪豪団」を派遣し、ホームステイをしながら、授業参加等を通して交流を深めています。

また、ベイサイド・P-12カレッジからも隔年(令7,9,11)で「訪日団」が本校を訪れます。ホームステイをして授業に参加したり、部活動を見学したりして交流を深めています。

■Q16 オーストラリアへの派遣生徒の選抜はどのようにして行われますか。

○A オーストラリア研修の参加者は、コースに関係なく全校生徒の希望者から15名を選抜して決定します。年度当初に募集要項が全校生徒に配付され、応募用紙に応募理由等を記入して学校に提出します。その後、応募者には日本語と英語の面接による選抜が実施され、派遣候補者が決定されます。

■Q17 シンガポール研修はどのような研修ですか。

○A シンガポール研修は、隔年(令7,9,11)で実施され、「国際理解コース」1・2年生の希望者全員と、「普通コース」全校生徒の希望者から選抜された生徒10名が対象です。「普通コース」からの選抜方法はオーストラリア研修に準じます。過去の例では、海外の日本企業や学校などを訪問したり、現地の学生と交流したりする研修内容となっています。

■Q18 海外研修の費用は自己負担ですか。

○A オーストラリア研修とシンガポール研修の、どちらの海外研修も費用は自己負担となります。オーストラリア研修ではホームステイなどの利用で、通常より安く行くことができ、過去の例では、日程や為替相場の円の状況にもよりますが、25万円～30万円程度かかりました。

シンガポール研修ではホームステイは無く、過去の例では、日程や為替相場の円の状況にもよりますが、オーストラリア研修と同様に25万円～30万円程度かかりました。

■Q19 交換留学生の受入れ状況を教えてください。

○A 本校では昭和56年度に最初の留学生を受け入れて以来、ほとんど途切れることなく1年間の長期留学生を1人又は2人を受け入れています。

出身国はノルウェー、オーストラリア、カナダ、ニュージーランド、フィンランド、フランス、ドイツ、アメリカ、スウェーデン、タイ、ハンガリー、ポルトガル、デンマーク、スイス、コロンビア、ロシア、韓国、マレーシア、ブラジル、パラグアイ、韓国、ラトビアなどです。また、1週間から1か月程度の短期留学生も受け入れています。出身国も長期留学生同様、英語圏以外の国からの留学生も積極的に受け入れています。

国際理解コースについて

- Q20 「国際理解コース」ではどのようなことを学び、将来はどのような進路を目指す人材を育てているのですか。
- A 「国際理解コース」では、英語による様々な学びを設定し、異文化理解を深め、実践的な活動を通して国際感覚を磨きます。将来は、国際系学部、語学、経済、法律系学部などへの大学進学を通して、国際感覚を持ったリーダーとして各所で活躍できる人材の育成を目指しています。
- Q21 「国際理解コース」の定員は何名ですか。
- A 「国際理解コース」の募集定員は40名です。本校の「国際理解コース」は、普通科の中にあるコースですので、普通科全体として一括で合格発表をしたあと、希望を取って所属コースを決定します。希望の取り方は合格発表後にお知らせします。どちらのコースにするか意思をしっかりと固めたうえでの受検をお願いします。
- Q22 コースによって合否の有利・不利はありますか。
- A Q21にある通り、合否を決定したあとに希望を取って所属コースを決定するため、合否の有利・不利は全くありません。
- Q23 「国際理解コース」では学力検査で英語の得点を高く（傾斜配点）設定しますか。
- A 傾斜配点はいりません。普通科として入試を行いますので、コースによる採点・配点の違いはありません。
- Q24 コースの決定は、いつわかりますか。
- A Q21にある通り、合格発表の後にコースについての希望を取り、その結果を3月下旬の合格者登校日に確認を取るのので、そこで確定となります。志望人数が多い場合、「国際理解コース」志望の合格者が「普通コース」になる場合があります。逆に「普通コース」を志望した生徒が、「国際理解コース」になることはありません。
- Q25 「国際理解コース」の授業内容の特色はどのようなところにありますか。
- A 「国際理解コース」では、英語多読、英作文やエッセイ作成、絵本の翻訳、小学校への出前英語講座、ポスターセッション、各種スピーチ、ディベートなどに積極的に取り組んでいます。また、オーストラリアの姉妹校のカレッジとの交流だけでなく、外国の高校生とのオンライン交流など、よりアクティブで実践的な内容を含んだ授業も行います。
- Q26 英語が得意でないと入れないでしょうか。英語が苦手だについていけなくなりますか。
- A そのようなことはありません。英語の基礎学力は必要ですが、英語に興味・関心を持ち続けて授業に取り組むことができれば大丈夫です。また、語学学習のみではなく、グローバルな視野から環境、経済、社会に関わる人類の課題について、ローカルな視点で学習します。
- Q27 1年生で「国際理解コース」に所属する生徒は、2年生以降に分かれるコース選択（文系・理系）において、どのようになりますか。
- A 1年生で「国際理解コース」に所属した生徒は、2年生以降は卒業まで基本的にそのまま「国際理解コース」として持ち上がります。2年生以降の授業内容は、大学入試科目の関係から文系の大学への進学を想定しているため、「人文・社会型」と同じ文系の内容となります。
- Q28 1年生で「普通コース」であった生徒が、2年生以降に「国際理解コース」に進むことは可能ですか。
- A 入学の段階で「普通コース」を選択した場合、卒業まで「普通コース」となるため、「国際理解コース」に進むことはできません。
- Q29 理系の大学を希望する場合は、1年生では「普通コース」ですか。
- A Q27にある通りですが、入学前から理系の大学への進学を少しでも考えている場合には、入学時に「普通コース」を希望することを推奨します。
- Q30 海外帰国生徒選抜はありますか。
- A 本校では「海外帰国生徒選抜」を行っていません。
- Q31 「国際理解コース」に進めば海外に行けますか。
- A Q17で述べたように、隔年（令7,9,11）でシンガポール研修を実施しており、「国際理解コース」に進めば1・2年生のどちらかで、希望生徒全員が参加することができます。また、隔年（令6,8,10）実施のオーストラリア研修にも、希望して選抜されれば参加することができます。

■Q32 「国際理解コース」では英検、TOEICなどの外部検定試験について、どのような扱いとなっているのでしょうか。

○A 授業での検定試験対策は行っていないですが、高校2年生の時点で英検2級程度の語学力を身に付けることを目標にしています。外部検定試験には様々なものがありますが、積極的にチャレンジする生徒は多く、英検1級に合格する生徒もいます。

■Q33 「国際理解コース」と「普通コース」とでは、学校行事や部活動の参加に違いはありますか。

○A 「国際理解コース」では、実践的な英語力や異文化理解力を身に付けるためのアクティブな活動が校内外で行われます。また、コースに関係なく学校行事や部活動に参加できるように工夫しています。

■Q34 長期留学はできますか。

○A 1年間休学をして留学をするケースがあります。本校に在籍のまま1年間留学（交換留学他）する場合については、入学後に学校にご相談ください。

学校行事について

■Q35 どのような行事がありますか。楽しい行事はありますか。

○A 東高祭（文化祭・体育祭）、球技大会、芸術鑑賞会、各種著名人のセミナー（講演会）、修学旅行、遠足、国際交流事業等があります。またボランティア活動にも積極的に取り組んでいます。生徒はどの行事にも熱心に取り組んでおり、高校生活の思い出となっています。

■Q36 東高祭（文化祭・体育祭）について具体的に説明してください。

○A 「東高祭」は毎年6月に実施され、1年生から3年生を学級単位で縦割りにして、団対抗で行います。
○ 文化祭は、ダンスコンクール、団プロジェクト（教室を利用した展示イベント）、文化部の発表、有志によるバンドやダンスパフォーマンス、PTAバザー（キッチンカー）が行われ、とても盛り上がります。
○ 体育祭は、団ごとに生徒がデザインした揃いの団Tシャツを着て、一般競技種目、団旗製作、応援合戦を団対抗で競い合います。応援合戦では、一糸乱れぬ息の合った演技が行われ、感動を呼びます。生徒たちの熱のこもった競技・応援を参観するため、保護者の来校も年々増えています。部活動対抗リレー、表彰式は最も盛り上がります。

■Q37 修学旅行について具体的に説明してください。

○A 修学旅行は2年生の11月に実施され、令和5年度までは長崎、福岡で平和学習・歴史文化学習を中心に実施してきました。令和6年度からは広島・宮島・大阪USJを基本行程とし、2日目に生徒の希望による広域班別学習を取り入れた形に変更となり、より充実した旅行となりました。

■Q38 生徒会の活動にはどのようなものがありますか。

○A 主に生徒会主催の行事（東高祭・球技大会等）を企画運営します。また、ボランティア活動にも積極的に参加しています。Q1の4を参照してください。

部活動について

■Q39 部活動の活動日は週どのくらいありますか。

○A 運動部は、部活動ガイドラインに則りながら計画的に週5日程度活動しています。文化部は、運動と同じくらい活動する部や週数回程度活動する部など様々です。

■Q40 部活動の時間について説明してください。

○A 部活動は季節（日没時刻）に応じて設定された下校時刻に合わせて活動しています。下校時刻は、春・秋・冬季の平日は18時、夏季は18時30分、土日祝日および長期休業中は全て17時です。また、1・2年生は始業前の課外学習がありませんので、早朝練習を行っている部活動もあります。

■Q41 好成績を収めている部活動について教えてください。

○A 部活動は、どの部も活発に活動しています。
令和6年度において、運動部では、ソフトテニス部、卓球部、バレーボール部、陸上部、水泳部が県大会に出場しています。中でも陸上部の幅跳び選手が、令和5年から2年続けて、県大会優勝、東海大会2位、全国大会7位、国体7位という目覚ましい結果を残しました。文化部では、令和3年度、放送部が愛知県で最優秀賞を受賞し、NHK杯全国高校放送コンテスト（全国大会）に出場して準決勝まで進むことができました。また、吹奏楽部も令和4年度から6年度に3年連続して東海大会に出場するなど、毎年目覚ましい結果を残しています。その他の部活動も、県大会を目標に日々練習を重ねています。なお、水泳部は施設老朽化のため、新入部員の募集停止となっています。

■Q42 学習と部活動は両立できるでしょうか。

- A 多くの生徒は、学習と部活動を両立させるために日々努力しています。部活動に一生懸命取り組んだ生徒は、集中力や時間を有効に使う習慣が身に付くため、学力も伸び、希望進路を実現することが多いといえます。
本校卒業生の合格体験メッセージにも、「部活で時間のないことを言い訳にしない。生活を見直せば勉強に回せる時間はいくらでもある。」、「部活で自分たちに足りないものを考え練習した経験や、仲間と頑張った経験が生きた。」などのコメントがあります。

■Q43 東高の図書館について教えてください。

- A 本校では1年に何回も購入する図書を選定する委員会を開催し、生徒からの要望を可能な限り受け入れながら、様々な本を取り揃えています。閲覧室（80席）は広く明るく、読書はもちろん、静かに自学習することもできます。運営は生徒図書委員が仕事を分担して行っています。

■Q44 どのような市町の中学校から東高へ通学しているのですか。

- A 現在約50を超える中学校の出身者が東高へ通学しています。一番多いのが安城市ですが、岡崎市、幸田町、蒲郡市、西尾市、刈谷市、知立市、豊田市、豊川市等からも通学しています。この通学圏の広がりが、東高の多文化化を促進させ、新しい学校文化の創造の原動力となっています。

■Q45 1年生では、入学金や授業料を含め、1年間でどの程度お金がかかりますか。

- A 1年生で1年間にかかる費用は、概算で総額約37万円～41万円です。総額の違いは制服代金によります。また、今後金額が変動することがあります。
- 内訳は、入学料・授業料（年額）〈※1〉が約12万5千円、教科書・補助教材・体操服等などが6万円、PTA会費・進路指導・模試等の学校諸費が約12万円となります。また、制服冬服上下でⅠ型〈※2〉は約4～5万円、Ⅱ型は約5万5千円～6万2千円、その他オプションが2万円～6万5千円となります。
 - 〈※1〉については、入学料減免や就学支援金の受給の制度（授業料の負担なし）があります。この制度の活用については、一定の条件を満たした上で、入学後の申請や認定が必要となります。入学時に詳しくご案内します。
 - 〈※2〉については、Ⅰ型が一般的男性型のシルエット、Ⅱ型が一般的女性型のシルエットとなります。

■Q46 奨学金にはどのようなものがありますか。

- A 奨学金には、概ね2種類があります。高校在学時に受給可能なものと、大学進学時に受給するために高校在籍中に予約しておくものです。県や市町村、民間のものがあり、支給が貸与か、その金額等も様々です。これらは一定の条件に基づいて、在学時の成績や高校生活の取組の様子を審査し、認定を受けることが必要なものが多いです。入学後に詳しくご案内します。

■Q47 東高では、校内外を問わず、生徒や保護者、職員が必要な情報をすぐに共有するとともに、学習や部活動などで、生徒と職員の個別的なやりとりが可能なシステムがあると聞いています。それは何ですか。

- A 「Classi」「ロイロノート」「Teams」と呼ばれるグループウェア（アプリ）のことです。
- グループウェアとは、学校が設定したネットワークを活用した情報共有のためのアプリです。欠席連絡（保護者に限る）や学習のポイントや課題の指示、課題の提出（画像や動画、英語のスピーチ音声）、部活動での情報共有、先生への相談の申し込み、先生とのメッセージのやりとり、学習時間等各種アンケートの受信・発信を行うことができます。
 - このグループウェアの導入により、学校（職員・生徒）と家庭（保護者）が効率的に情報を共有することができるようになりました。このクラウドを活用した技術は、すでに民間においては一般化しており、これから全国の学校で普及していくはずです。

■Q48 東高の公式ホームページについて教えてください。

- A 東高の公式ホームページは、独自サーバーで運用しています。
- 県内の公立高校の10数校がこのような運用を開始しています。このため、世界・日本、どこからでも情報更新が可能になり、いつでもどこでもすぐに情報がアップできます。
 - 中学生と保護者の皆様には、まずは、トップページ「安城東高校の基本情報」と「中学生・保護者の皆さんへ」をご覧ください。
 - 東高では「ホームページは学校情報のストックホルダー」と考えています。ホームページが、学校関係者だけでなく、地域社会と同窓生をつなげる架け橋として役立つような運営方法をこれからも模索していきます。なお、同窓会は「碧海野会」という独自のホームページを開設しており、東高の公式ホームページにリンクがあります。こちらも是非ご覧ください。

■Q49 東高での＜今の＞＜これからの＞高校生活の様子は、何を見ればわかりますか。

○A 学校情報の受信のためのメール登録が便利です。

- 東高では令和4年度から、中学生やその保護者の方、同窓生や地域の方に学校情報をメール配信する「安城東高校メール会員」システムを導入しました。
- 下にあるQRコードをスマホで読み取り、配信登録をしていただければ、ホームページの更新情報や日々の高校生活の様子など、スマホやタブレット・PC等で定期的に受信できるようになります。

■Q50 東高での高校生活は楽しいですか。

○A 以前本校のある生徒が、母校の中学校で開催された「OBOGによる高校説明会」へ派遣されたときに語った言葉です。

「東高は進学校だけど、高校生活はワクワクドキドキすることが本当に多いです。学校生活が楽しくなれば勉強もやる気が出てきて、毎日が充実しています。」



- 毎年多くの方に登録いただいております、1か月に1～3回、情報をお届けしています。
- この情報は、原則としてホームページのリンク先を添付したものですので、受信情報量は少なく済みます。登録には個人名や在籍中学校名は不要です。配信停止もメール内の該当箇所をクリックすればすぐにできます。
- 公式ホームページの「中学生・保護者の皆さんへ」をクリックすると、「学校情報の受信についてご案内」という「PDF資料」が出てきます。それをクリックすると、詳細を確認することができます。是非、ご登録ください。

最後までお読みになってくださり、ありがとうございました。
他に知りたい事柄などございましたら、学校まで電話にてお問い合わせいただければ幸いです。



安城東高校

マスコットキャラクター

「アンビーちゃん」